

ふるさと大和とともに、わくわくする学校づくりを

揖斐川町立大和小学校

1 ふるさと大和から大切にされる子

「おはようございます。今朝も付き添いでの見守り、ありがとうございます。」

子どもたちだけでなく、多くのサポーターさんに、毎朝校門であいさつをすることから本校の朝は始まります。子どもたちは、近所の大人である、安全見守りサポーターさんと他愛もない話をしたり、「先生にあいさつしなさいよ。」「ポケットから手を出して。」などと促されたり、時には悩みを打ち明けたりしながら登下校しています。

本校児童にとっては当たり前の日常ですが、時代の流れの中で急速に失われつつあるものが、変わらず大切に続いていることは、揖斐川町のありがたい文化です。

また、本校では、地域の専門的な立場の方を講師にお招きした教育課程を設定しています。「わくわくする学校」づくりを努めている本校ですが、子どもたちにとって非日常の外部講師の授業は、目を輝かせて参加します。



今年度もすでに、近隣大学や、地域の助産院、町の災害救援ボランティアなどに、様々な方に、授業をしていただきました。どなたも本校児童のために熱心に指導くださり、心に残る言葉を残してください。

子どもたちは、命の神秘やかけがえのなさ、身体能力の飛躍への憧れ、地域のために貢献することの意義や防災・防犯のための自助・共助の重要性などを体感したり実演を見たりして学ぶとともに、地域の専門的な立場の方と触れ合う機会にもなっています。

2 ふるさと大和を大切にする子

こうしたふるさと教育や、地域と結び付きの深い教育課程を設定することのねらいを次のように考えています。

地域の一員として主体的に体験活動や課題解決学習に取り組み、ふるさと大和を守り育てるために、自分にできることを見つけ、行動することができ

る。地域の皆さまとともに子どもたちを大切に見守りながら、これからも「わくわくする学校」づくりに努めてまいります。

地域とともに歩む北方小学校

揖斐川町立北方小学校



「ふるさと岐阜で育んだ自信と誇りを胸に、よりよい未来の実現に挑み続ける人」。これは第4次岐阜県教育振興基本計画に示された目指す人間

像です。これを受け、本校では「地域とともにある北方小学校」つながりと支え合い」を掲げて活動しています。

校区には坂内、藤橋、久瀬、北方の四地区があります。それぞれ脈々と受け継がれてきた伝統文化があり、踊りでは、「川上ほうろ踊り」「広瀬太鼓踊り」「坂本太鼓踊り」「諸家太鼓踊り」「八幡神楽」「白山権現祭り」「東津汲鎌倉踊り」「三倉の太鼓踊り」「北方踊り」等があります。いずれも歴史の重みを感じる素晴らしいもので、地域の豊かな自然・歴史・文化を知り、人々との交流を深めることで、たくましく生きる基盤が育つと考えています。

1 自然を知る

面積の90%以上が森林という町の色を踏まえ、毎年4年生が森林学習を行っています。「みどりの少年団」として、地域の森林の保全や整備について学んでいます。今年度はさらに砂防

ダムについても理解を深めました。

2 歴史・文化を知る

揖斐川歴史民俗資料館の館長から校区や町の伝統芸能について説明をしていただきました。こんなにもたくさんの踊りがあるのだと知り、先人の思いに触れました。その一つである「北方踊り」を保存会の方にご指導いただき、運動会や公民館祭りで披露しています。また、各地区の神社祭礼の巫女舞にも積極的に参加しています。

3 人々との交流を深める

毎年、北方地域資源保全隊の方々の協力で、5年生が米作りを行っています。低学年では地元のスーパ―や事業所などにも協力いただき、社会の仕組みについて学んでいます。今年度はさらに地元出身で活躍されている方を招いての講演会や演奏会を行いました。

来年度は「クラウンロード」を通じて、隣接する福井県池田町立池田小学校との交流も計画しています。地域を

知り、人々と触れ合い、他地域とも交流していく中でふるさとを再認識し、誇りと愛着を育み、たくましく生きる基盤づくりを進めていく所存です。





☆みんなで考えよう!☆ これからの学校教育の在り方。

揖斐川町の将来を見据えた学校教育の在り方について考える。

12月13日(土)、小中学校の適正規模、適正配置および必要な教育環境について、先行する自治体の事例に学び、今後の学校教育の在り方を町民の皆さまと考える契機とすることを目的にシンポジウムを開催しました。会場には、審議会委員を始め、町内外から100名を超える皆さまの参加を得て、活発な意見交流がなされました。

事例発表1

「海津市立海津小学校の誕生に込めた願い」 (海津市教育長 服部公彦様)

事例発表1では、5つの小学校を1校にするという大規模な学校再編に込められた願いや意向、統合にあたっての課題等について話していただくとともに、統合後1年を経た現在の学校の様子について教えてくださいました。



《基本的な考え方》

・保護者や地域住民等との十分な共通

理解を図ること

・子どもたちの教育条件の整備・改善の観点を中心に据えること

・若者がリーダーとなってこれからの海津市を創っていく象徴にすること

《開校後の成果と課題》

・学校運営協議会を核にした地域と連携した学校づくりが進んだ。

・子どもたちは集団の中で多くの経験をし、相手を思いやる気持ちや協調性の向上がみられる。

・バス通学に関すること等、よりきめ細かく情報発信する必要がある。

事例発表2

「義務教育学校の魅力と課題」 (岐阜市教育長 水川和彦様)

事例発表2では、義務教育学校に関するメリット・デメリットについて示唆いただくとともに、岐阜市で進められている義務教育学校の設置について情報提供をいただきました。

《特色①》マンパワーの充実

・小中両免許所有教員の兼務により専門性の高い教科指導を実施する。

《特色②》9年間の系統的な教育

・切れ目のない9年連続のカリキュラム(教育課程)を編成・実施する。

《特色③》学びと成長の連続性の保障

・全校共通の目標設定とピアサポート(互いの経験や悩みを分かち合い、助け合うこと)を日常的に行う。

《特色④》学校と地域のコラボレート

・ふるさとの強力な教育資源(ひと・こと・もの)を授業等に活かす。

《特色⑤》プロジェクト学習の導入

・9年間一貫して取り組む「ふるさと学習」を特別な教科として実施する。

シンポジウム(意見交流)

秋山委員長がコーディネーターを務め、有識者、地域代表者および保護者の各委員と事例発表者がステージ上で互いの考えを伝え合い、フロアーの皆さんとも意見交流を行いました。

・タブレットが導入され、ICTを活用した学習が積極的に進められている。社会の変化を見据えた教育としてよいことだと思う。

・地域と学校が一体となった教育が行われている。子どもたちは地元を離れても揖斐川町のことが大好きでいてくれるように思う。

・地域性を活かした特色ある教育や少人数によるきめ細かな指導が行き渡っている。一方で少子化が進む中で教育の質の低下や子どもたちの人間関係の固定化も懸念される。

・統合して新しい学校を造るとなると多額の費用が必要になるため、現在の校舎を利用することも考えたい。

・人間関係の中で生じる息苦しさ等の心理的負担を軽減させることが大切

になる。

そのため

には環境

変化によ

る気分の

一新が有

効であ

り、学級

編制によ

るクラス

替えもそ

の一つと

言われて

いる。

・義務教育学校の仕組みはとてよいと思ったが、幼児園から小学校に進学して45分の授業を受けることに抵抗感のある子どももいる。これ乗り越えることができれば9年間の学校生活もうまく成長していける。

アンケート調査に始まり、地区集会、シンポジウムを通して、町民の皆さまから様々なご意見をいただきました。今回の審議会ではこれらを分析し、これからの揖斐川町にとって必要な教育環境について議論を深めていきたいと考えています。

